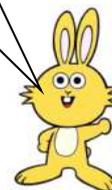




今月の一枚  
2007年12月の星  
空スポーツ第1回



S-project

■星空スポーツの趣旨と経緯

2007年12月から始まった星空スポーツ広場、丸8年が経過し、9年目に突入しました。

当初は校庭のみをお借りしサッカーだけでしたが、数か月後には、体育館もお借りすることができるようになり、卓球、バドミントンと種目が広がりました。

特に、最近バドミントンの人気が高く、中高生を中心に多い時には100名近い参加者を得ています。

会員制のクラブである浦和スポーツクラブですが、星空スポーツ広場については、地域にお住まいの方が、できるだけ参加しやすいようにすることを条件に、埼玉県（スポーツ振興課）、浦和高校と浦和スポーツクラブで2年間ほどの話し合いの末に始まった取組でした。

クラブとしては採算性が合わない取組にも関わらず星空スポーツ広場を発案・提案し、長い間実施してきたのは訳があります。

実は、星空スポーツ広場の企画は、Sプロジェクトというクラブが考案した構想の一環として始まったものです。

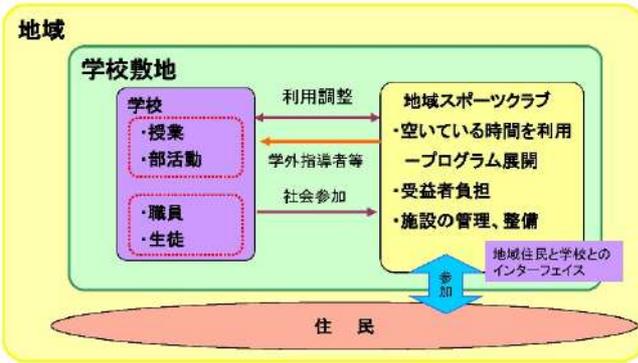
■プロジェクトの概要

Sプロジェクトは、

- ・ 地域スポーツクラブの活動拠点として県有施設（県立高校）を活用し、
- ・ 既存の学校施設開放のようにチームやサークルへの面貸しではなく、クラブに貸し出すことで、

- ・ 場所を複数種目やいろいろな人がシェアすることで、より多くの人が使うことができ、
- ・ 高校を拠点とすることで大人の活動もしやすくなり、中学生、高校生の活動も可能なため、地域で年代が縦につながるができる

ことなどから、小学校などを拠点とするよりもクラブづくりの効果が得やすいであろうということで検討したものです。



図のように、学校の負担を増やすことなく、クラブが施設開放委員会の機能を担うようなイメージを持っていました。

このような姿を目指す中で、県とは、クラブ会員以外の人たちでも使える時間をつくることとして、星空スポーツのような使い方を提案したものです。

ただし、サークルやチームに入っていない人でも使うことができるようにするため、クラブがすべてのプログラムをマネジメントするということとしました。